

第七十九回
帝國議會
貴族院

所得稅法中改正法律案特別委員會會議事速記録第一號

(六九)

付託議案

所得稅法中改正法律案(政)
 法人稅法中改正法律案(政)
 所得稅法人稅內外關涉法中改正法律案(政)

相續稅法中改正法律案(政)
 織物消費稅法中改正法律案(政)
 物品稅法中改正法律案(政)
 電氣瓦斯稅法案(政)

廣告稅法案(政)
 馬券稅法案(政)

印紙稅法中改正法律案(政)
 臨時利得稅法中改正法律案(政)
 特別法人稅法中改正法律案(政)
 營業稅法中改正法律案(政)

臨時租稅措置法中改正法律案(政)
 國庫出納金端數計算法中改正法律案(政)
 戰時災害國稅減免法案(政)

所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律案(政)
 地方分與稅法中改正法律案(政)

委員氏名

- 委員長 伯爵樺山 愛輔君
 副委員長 男爵松岡 均平君
 伯爵島津 忠重君
 侯爵大隈 信常君
 侯爵井上 三郎君
 子爵青木 信光君
 關屋貞三郎君
 子爵野村 益三君
 子爵大河内輝耕君

子爵西尾 忠方君
 子爵綾小路 護君

中川 健藏君
 平塚 廣義君

吉田 茂君
 内田 重成君

柴田善三郎君
 田邊 治通君

男爵大森 佳一君
 男爵中御門經民君

三浦 新七君
 松村 義一君

堀 啓次郎君
 野村 徳七君

下出 民義君
 中島徳太郎君

上野喜左衛門君
 男爵古市 六三君

昭和十七年二月六日(金曜日)午後二時三十分開會

○委員長(伯爵樺山愛輔君) ソレデハ是ヨリ委員會ヲ開會致シマス、大藏大臣ノ説明ヲ御願ヒ致シマス

○國務大臣(實屋與宣君) 本委員會ニ付託トナリマシタ所得稅法中改正法律案外十六件ノ法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明致シタイト存ジマス、本會議ニ於キマシテモ申上ゲマシタル如ク政府ハ財政ノ需要、國民生活及ビ國民經濟ニ及ス影響等ニ付キマシテ慎重考究ヲ遂ゲマシタル上、稅制ノ全般ニ互ル増稅計畫ヲ樹立致シマシテ、曩

ニ早急實施ヲ要スルト認メラレル酒稅其ノ他ノ間接稅ヲ中心トスル増稅案ニ付キマシテハ、第七十七回帝國議會ニ於キマシテ其ノ案ノ御協賛ヲ經マシテ、既ニ實行致シテ居ルノデアリマスルガ、今回更ニ増加致シマスル臨時軍事費ノ財源ノ一部ニ充テマス爲、直接稅ヲ中心トスル増稅ヲ行ヒ、之ト共ニ必要ナル稅法ノ改正ヲ行フコトシテ、シタ次第デアリマス、今回ノ増稅案ノ作成ニ當リマシテハ、戰時ニ於ケル財政需要ニ對應シテ國庫收入ノ増加ヲ圖リ、之ニ依ツテ戰時財政ヲ強化スルコトガ主眼デアリマスルガ、一面其ノ實行ノ結果ト致シテ購買力ノ吸收、消費ノ抑制ニモ資スルコトデアリマス、ソレ等ノ見地カラ現下ニ於ケル經濟情勢及ビ國民負擔ヲ考慮シツ、分類所得稅ノ増徵ヲ中心ト致シマシテ、各種ノ直接稅ニ付相當稅率ヲ引上ゲマスルト共ニ、現行間接稅ノ一部ニ付キマシテモ、必要ナル増徵ヲ行フコトト致シタノデアリマスルガ、其ノ外ニ電氣瓦斯稅、廣告稅及ビ馬券稅ヲ創設致シタノデアリマス、尙貯蓄ノ増強、生産力ノ擴充、産業ノ再編成、特ニ中小工業ノ再編成、竝ニ人口及國民保健政策ノ圓滑ナル遂行ニ資スル等ノ爲、適當ト認メラル、租稅上ノ措置ヲ講ズルコトト致シタノデアリマス、以下今回ノ増稅案ノ内容ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、先ヅ分類所得稅デアリマスガ、先ニ述ベマシタ今次増稅ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、増稅ノ主眼

ヲ之ニ置クコトト致シ、廣ク國民ハ其ノ能力ニ應ジテ戰費ヲ負擔スルコトトシ、一面ニ購買力ノ吸收ニ資スル見地ヨリ、各種所得間ノ負擔ノ權衡ニ留意シツ、稅率ノ引上及ビ免稅點又ハ基礎控除ノ引下ヲ行ヒ、總額ニ於テ大體五割五分ノ増徵ヲ行フコトト致シタノデアリマス、其ノ改正ノ要點ハ第一ニ稅率ノ引上デアリマス、即チ不動産所得ニ付テハ百分ノ十ヲ百分ノ十六ニ、配當利子所得ニ付キマシテハ百分ノ十ヲ百分ノ十五ニ、營業所得ニ付キマシテハ百分ノ八・五ヲ百分ノ十二ニ、營業以外ノ事業所得ニ付キマシテハ百分ノ七・五ヲ百分ノ十二ニ、又勤勞所得ニ付テハ百分ノ六ヲ百分ノ十ニ引上ゲルコトニ致シタノデアリマス、之ニ伴ヒマシテ配當利子所得中ノ國債及地方債ノ利子、銀行貯蓄預金等ノ利子ニ付テモ稅率ヲソレノ百分ノ五引上ゲマシタ、少額ノ事業所得、山林ノ所得、退職所得等ニ付キマシテモ適當ナル引上ヲ行フコトト致シタノデアリマス、尙不動産所得ノ稅率引上ニ伴ヒ、少額ノモノニ付テハ負擔ヲ多少緩和スルヲ適當ト認マシテ、稅率ヲ百分ノ十四ニ致シマシタ、第二ハ不動産所得ノ免稅點二百五十圓デアリマスルノヲ百五十圓ニ引下ゲ、事業所得及ビ山林ノ所得ノ基礎控除五百圓ヲ四百圓ニ下ゲマシタ、勤勞所得ノ基礎控除七百二十圓ヲ六百圓ニ下ゲマシタ、退職所得ノ控除一萬圓ヲ五千圓ニ引下ゲタノデアリマス、第三ハ、右ノ増稅ニ伴ヒ扶養家族多キ者ノ負擔

ヲ緩和シマスルコトハ負擔ノ衡平ノ見地ヨリ見マシテモ、人口及國民保健政策ノ見地カラ考ヘマシテモ、此ノ際適當ナル措置ト存ゼラレマスルノデ、扶養家族ノ控除額ヲ現行年百五十圓ノ百分ノ八、即チ月一圓デアリマスルノ年二百圓ノ百分ノ十二、即チ月二圓ニ引上ゲマスルト共ニ、控除ヲ受クベキ所得者ノ範圍ヲ擴張シテ、綜合所得稅ヲ納ムル者ニ付テモ控除ヲ認ムルコトト致シ、更ニ五人以上ノ子女ヲ有スル所得者ニ對シマシテハ、特ニ控除額ヲ年二百圓ノ百分ノ十八、即チ月三圓ニ致シタノデアリマス、第四ハ、生命保險料ニ付テモ此ノ際控除額ヲ相當程度引上ゲルコトヲ適當ナリト認メマシテ、現行年二百圓以内ニ於テ拂込保險料ノ百分ノ六トアリマスルノシタノデアリマス、第五ハ、銀行貯蓄預金、產業組合貯金等ニ付キマシテハ、從來三三圓ノ限度トシテ所得稅ヲ免除シテ居ルノデアリマスガ、之ニ付テモ貯蓄ノ獎勵、郵便貯金預入最高限度ノ引上等ヲ考慮致シマシテ、五千圓ニ引上ゲルコトヲ致シタノデアリマス、第六ハ、株式ノ清算市場ニ於ケル取引ニ因ル所得ニシテ從テ課稅セラレナカッタモノガアリマス、之ニ付テモ他ノ所得トノ權衡上新タニ分類所得稅ヲ課スルコトト致シマシテ、株式ノ清算取引ヨリ生ジタル所得ヨリ三三圓ヲ控除シタル殘額ニ對シ百分ノ二十五乃至百分ノ五十五ノ稅率ニ依リ課稅スルコトト致シタノデアリマス、尤モ此ノ課稅ハ昭和十八年分ヨリ行フノデアリマス、次ニ綜合所得稅ニ付キマシテハ、第一ニ課稅最低限ハ從來五千圓デアリマシタガ、各方面共ニ負擔ヲ增加スル要アル此ノ

際ト致シマシテハ、之ヲ引下ゲルヲ適當ト認メマシテ三三圓ト致シタノデアリマス、第二ニ稅率ニ付キマシテハ、現行法ニ於ケル稅率ガ既ニ相當高率ノ課稅ヲ爲シテ居リマスル點ヲ考ヘマシテ、大體二割ノ引上ヲ行フコトト致シ、三三圓ヲ超ユル部分ニ對スル百分ノ六乃至五十萬圓ヲ超ユル部分ニ對スル百分ノ七十二ノ稅率ニ於テ課稅スルコトト致シタノデアリマス、右ノ稅率引上ニ對應致シマシテ、公社債、銀行預金ノ利子等ニ付テ源泉課稅ヲ選擇シタル場合ニ於ケル綜合所得稅ノ稅率ヲ百分ノ十五ヨリ百分ノ二十五ニ引上ゲタノデアリマス、第三ニ配當所得ニ付キマシテハ、分類所得稅ヲ課スル場合ニ其ノ一割ヲ控除シテ課稅シ、綜合所得稅ヲ課スル場合ニハ分類所得稅ニ於テ輕減サレタ稅額ヲ加算シテ居ルノデアリマスルガ、今回右ノ加算ヲ廢止スルコトト致シタノデアリマス、次ニ法人稅ニ付テハ、分類所得稅及綜合所得稅ノ增徴トノ權衡、增稅ガ經濟界ニ與フル影響等ニ付考慮致シマシタ結果、所得ニ對スル稅率ヲ百分ノ十八ヨリ百分ノ二十五ニ引上ゲルコトト致シマシタ、同族會社ノ加算稅率ニ付キマシテモ、現行稅率百分ノ二十乃至百分ノ六十五ヲ、百分ノ二十四乃至百分ノ七十二ニ引上ゲルコトト致シタノデアリマス、次ニ臨時利得稅デアリマスルガ、戰時ニ於ケル超過利得ニ相當重課スルノ趣旨ヲ以テマシテ、法人臨時利得稅ニ於テハ利得金額ノ區分ヲ改正スルト共ニ、稅率ヲ百分ノ二十五乃至百分ノ六十五デアリマスルヲ、百分ノ三十五乃至百分ノ七十五ニ引上ゲタノデアリマスガ、一面小法人ニ付キマシテハ從來通り稅率ヲソレノ百分ノ十輕減スルコトト

致シマシタ外、昭和十二年以後ニ第一次事業年度ノ終了スル法人ニシテ積立金ノ少額ナルモノニ付キマシテハ、其ノ企業ノ基礎ヲ堅實ナラシムル趣旨ヨリ、一定ノ利得ニ對シ稅率ノ引上ヲ見合セテ負擔ノ緩和ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、個人ノ臨時利得稅ニ付キマシテハ、營業利得ニ對スル稅率、現行百分ノ三十ヲ百分ノ三十五ニ引上ゲマシタ、又不動產等ノ讓渡ニ因リ利得ヲ得ル者ニ對シ課稅ヲ致シマセスコトハ、負擔衡平ノ見地カラモ適當ニ非ズト認メラレマスノデ、船舶、鑛業權等ノ讓渡利得ト同様之ニ課稅スルコトト致シ、稅率ハ三者ヲ通ジマシテ現行百分ノ二十五トアリマスヲ百分ノ二十五乃至百分ノ五十五ノ超過累進率ニ改メタノデアリマス、此ノ讓渡利得ニ關スル改正案ハ昭和十八年分ヨリ適用スルコトト致シテ居ルノデアリマス、次ニ特別法人稅ニ付キマシテハ、一般ノ法人ニ對スル法人稅ノ增徴ニ對應シ、產業組合其ノ他ノ特別ノ法人ニ對シテモ負擔ヲ增加スル爲、現行稅率百分ノ六ヲ法人稅ノ半額、即チ百分ノ十二・五ニ引上ゲマスル同時ニ、森林法ノ改正ニ依リ森林組合及同聯合會ガ出資ヲ有シ、且經濟行爲ヲ爲シ得ルコトガ認メラレルコトトナリマシタノデ、他ノ特別ノ法人トノ權衡上是等森林組合ニ對シマシテモ新タニ本稅ヲ課稅スルコトト致シタノデアリマス、次ニ相續稅デアリマスガ、右ニ述ベマシタ如ク所得ニ對シ相當ノ增稅ヲ致シマス關係カラ致シマシテ、財産ニ對シテモ此ノ際或程度負擔ヲ增加スルコトヲ適當ト認メマシテ稅率ノ引上ヲ致スコトトシ、總稅額ニ於テ二割程度ノ增徴ヲ爲サムトスルモノデアリマス、尙相續稅ニ付キマシテハ、今回ノ增

稅ニ伴ヒ、次ノ二ツノ點ニ付テ改正ヲ致サムトスルノデアリマス、即チ第一ハ扶養家族アル者ノ負擔ヲ緩和スル爲、控除額ヲ現行千圓ヨリ千五百圓ニ引上ゲタコトデアリマス、第二ニ增稅ニ因リ負擔ガ相當增加致シマス關係上、納稅ノ便ニ資スル爲、不動產ニ依リ物納シ得ベキ稅額ノ範圍ヲ二割程度擴張セムトスルモノデアリマス、次ハ間接稅デアリマスガ、織物消費稅ニ付キマシテハ現在ノ負擔ヲモ考慮シタル上、稅率ヲ百分ノ十ヨリ百分ノ十五ニ引上ゲマシタ、尤モ人造絹織物等ノ内一般大衆ノ生活ニ關係ノ深イ織物ニ付キマシテハ、臨時的措置トシテ現行稅率百分ノ十ヲ据置クコトト致シタノデアリマス、其ノ他物品稅中燐寸ニ付テハ現行稅率千本ニ付五錢ヲ千本ニ付十錢ニ引上ゲマシタ、又印紙稅ニ付キマシテハ最近屢次ノ增稅ニ當リ之ガ增徴ヲ致サナカッタ點カラ考ヘマシテ、物品切手以外全部增加致シマシタ、例ヘバ受取書ニ付キマシテハ三錢ヲ五錢ニ上ゲマシタ、又委任狀ニ付テハ二錢ヲ三錢ニ上ゲマシテ、總稅額ニ於テ七割程度ノ增稅ト相成リマス、次ニ新稅デアリマスルガ、是ハ電氣瓦斯稅、廣告稅及馬券稅ノ三稅ヲ創設スルコトト致シタノデアリマス、電氣瓦斯稅ハ住宅、商店等ニ於ケル電氣又ハ瓦斯ノ使用ニ付キマシテハ、他ノ消費稅トノ權衡上、應分ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認メラレマスルシ、又課稅ニ依リマシテ消費ノ抑制ニモ幾分役立ち得ルト存ジマス、是等ノ見地カラ致シマシテ住宅、商店、旅館、劇場等ノ用ニ使スル電氣瓦斯ノ消費料金ガ一月三圓以上ノモノニ付キマシテ料金ノ百分ノ十ノ稅率ヲ以テ課稅セムトスルノデアリマス、尙十

六燭ノ定額燈ヲ四個又ハ普通ノ瓦斯七輪ヲ
二個程度使用スル者ニ對シマシテハ、其ノ
料金額ガ一月三圓以上ノ場合ニ於テモ課稅
ヲ致サナイコトト相成ッテ居リマス、廣告稅
ハ、廣告ハ通常營業ニ關スルモノデアリマ
シテ、之ニ依リ營業上ノ利益ヲ相當增加シ
得ル性質ノモノデアリマスルシ、又營業ニ
關シナイモノデアリマシテモ、斯ウ云フ方面
ニ對スル支出ハ相當擔稅力アリト考ヘラレ
マスルノデ、之ニ付キマシテモ或程度ノ課稅
ヲ爲スヲ適當トシマス云フ見地カラ致シマ
シテ、廣告ノ性質、徵稅ノ便宜等カラ廣告ヲ二
種類ニ分チマシテ、新聞紙、雜誌等ノ出版物、
汽車、電車等ノ交通運輸機關等ニ於ケル廣告
ヲ第一種ト致シマシテ、「ポスター」、立看板等ヲ
第二種ト致シマシテ、第一種ノ廣告ニ付テ
ハ料金ノ百分ノ十ヲ取ルコトニ致シマシ
タ、第二種ノ廣告ニ付キマシテハ一定額ノ
稅率ニ依ルコトト致シマシタ、例ヘバ「ポ
スター」等ニ付テハ一個ニ付十錢、立看板
等ニ付テハ一個ニ付原則トシテ二十錢ノ稅
率ニ依リ課稅セムトスルモノデアリマス、
次ハ馬券稅デアリマス、競馬ノ勝馬投票券
ノ賣上ニ對シテハ、從來納付金ヲ納メシメ
テ居ルノデアリマスガ、勝馬投票券又ハ優
等馬票ノ賣上金及其ノ購買者ニ對スル拂戻
金ニ付キマシテハ、此ノ際或程度ノ課稅ヲ
爲スヲ適當ト認メマシテ、本稅ヲ創設致シ
マシタ次第デアリマス、即チ勝馬投票券ノ
賣上金ニ付キマシテハ百分ノ七、優等馬票
ノ賣上金ニ付キマシテハ百分ノ四、勝馬投
票券ノ購買者ニ對スル拂戻金ニ付キマシテ
ハ百分ノ二十、優等馬票ノ購買者ニ對スル
拂戻金ニ付キマシテハ百分ノ十ノ稅率ニ依
リ課稅セムトスルモノデアリマス、次ニ臨

時租稅措置法ノ改正ニ付テ申上ゲマス、今
回ノ増稅案ノ作成ニ當リマシテ、增稅スベ
キ租稅ノ種類及ビ增稅額ノ決定ニ當リ、經
濟上ノ諸政策トノ調和ニ付慎重ナル考慮ヲ
拂ツタ次第デアリマスルガ、尙貯蓄ノ増強、
生産力ノ擴充、産業ノ再編成政策ノ圓滑ナ
ル遂行ニ資スル等ノ爲、臨時租稅措置法ヲ
改正致シマシテ、租稅上必要ナル各種ノ措
置ヲ講ズルコトト致シタノデアリマス、其
ノ第一ハ、戰時下益、緊要トセラレマスル國
民貯蓄ノ増強ニ資スル爲ノ措置デアリマス、
即チ個人ノ長期預金及ビ一定期間据置キタ
ル登錄公債等ノ利子ニ對スル分類所得稅
ヲ百分ノ一乃至百分ノ五輕減スルコトニ致
シマシタ、次ニ今回ノ所得稅ノ配當利子所
得ニ對スル增稅ハ、金融機關ニ對シ相當影
響ヲ及スコトトナリマスルノデ、金融機關
ノ資金運用ヲ合理的ナラシムルト共ニ、其
ノ經營ヲ堅實ニ致シマスル爲、分類所得稅
ノ緩和ヲ圖ルコトニ致シマシタ、即チ金融
機關相互間ノ預金デアリマシテ、一定ノ條
件ヲ具備スルモノニ付テハ分類所得稅ヲ免
除シ、又銀行、生命保險會社等ノ保有スル
供託會社債又ハ登錄公債ノ利子ニ對スル
分類所得稅ノ稅率ヲ百分ノ二乃至百分ノ六
輕減セムトスルノデアリマス、其ノ他生命
保險會社ニ對シテハ昭和十五年ノ稅制改正
ニ於テ株式配當ニ對シ源泉課稅ヲ創設致シ
マシタ際ニ、從前ヨリ所有スル株式ノ配當
ニ對シマシテハ分類所得稅ヲ百分ノ四輕減
致シタノデアリマスルガ、今回其ノ輕減ノ
程度ヲ多ク致シマシテ、百分ノ五輕減スル
コトト致シタノデアリマス、第二ハ時局下
極メテ重要ナル生産力ノ擴充ニ資スル爲ノ
方策デアリマス、即チ法人ノ留保所得ニ對

スル課稅輕減ノ制度ヲ擴張シタコトデアリ
マス、現行法ニ於キマシテハ、其ノ法人ガ
所得ノ三割以上ヲ留保シテ、之ヲ生産設備
ノ擴張又ハ國債等ノ保有ニ運用シタ場合ニ
於テハ、其ノ運用金額ノ百分ノ三・六ニ相
當スル法人稅ヲ輕減スルコトニナッテ居ル
ノデアリマスルガ、今回ハ所得ノ一割以上
ヲ留保シテ、同様ノ目的ニ運用シタル場合
ニ於キマシテハ、其ノ運用金額ノ百分ノ七・
五ニ相當スル法人稅ヲ輕減スルコトト致シ
タノデアリマス、又配當所得ニ對スル增稅
ガ今後ノ株式拂込ニ與フル影響ヲ緩和シ、
企業ノ擴張ニ便ナラシメマス爲ニ、時局ノ
上カラ緊要ト認メラレマスル産業ヲ營ム會
社等ノ新規拂込株式配當金デアリマシテ、
配當率ガ一定以下ノモノニ對スル分類所得
稅ノ稅率ヲ百分ノ二輕減スルコトト致シマ
シタ、其ノ他政府保證社債ノ優遇ニ資スル
爲、其ノ利子ニ對スル分類所得稅ノ稅率ヲ
百分ノ一輕減ヲ致シマシテ、地方債ノ場合
ト同ジク即チ百分ノ十四ト致シマシタ次第
デアリマス、第三ハ企業ノ再編成ニ關シ租
稅上必要ト認メラル、措置ヲ講ジタノデ
アリマス、即チ企業ノ合同整理ハ時局
下愈、緊要ト認メラレルノデアリマスガ、
課稅ノ上ニ於テモ其ノ便宜促進ヲ圖リマス
ル見地カラ、法人ガ昭和十八年三月迄ニ事
業ノ統制ノ必要ニ上合併又ハ解散ヲシマシタ
場合ニ於テハ、清算所得ニ對スル法人稅ヲ百
分ノ十五又ハ百分ノ二十ニ輕減致シマシタ、
又ハ事業ノ統制ノ必要ニ上合併、解散シタル
法人ノ株主等ノ受クル所得稅法第八條ニ規
定スル利益ノ配當ニ付キマシテハ、分類所得
稅ヲ百分ノ五輕減スルコトト致シマシタ、
又昭和十六年又ハ昭和十七年中ニ營業ノ全

部又ハ大部分ヲ廢止シタ個人ニ致シテハ、
所得稅及營業稅ヲソレノ輕減又ハ免除ス
ルコトトシ、其ノ他課稅標準ノ計算ニ關ス
ル特例、登錄稅ノ輕減等ニ付キマシテモ規
定ヲ設クルコトト致シタノデアリマス、以
上ノ外統制會社等ガ價格政策ノ必要ニ上ケ
マスル價格平衡資金法人ノ爲ス寄附金等ニ
關シテモ規定ヲ設ケルコトト致シタノデア
リマス、尙別ニ企業經營ノ堅實化ニ資スル
爲、固定資産ノ減價償却年限ヲ適正化スル
見込デアリマス、次ニ戰時災害ノ特質ニ鑑
ミ、被害者ノ納付スベキ國稅及被害物體ニ
對シ課セラルベキ國稅ニ付キマシテ輕減又
ハ免除等ヲナス爲、戰時災害國稅減免法ヲ
制定シ、又日滿相互關係ノ緊密化ニ伴ヒ、
兩國間ノ重複課稅ヲ防止スル爲、所得稅等
ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律ヲ制定ス
ルコトト致シマシタ、其ノ外營業稅法、所
得稅法、所得稅法人稅内外地關涉法及國庫
出納金端數計算法ニ付テモ必要ナ改正ヲ行
フコトト致シタノデアリマス、以上今度增
稅等ニ關スル法律案ニ付キマシテノ御説明
デアリマスルガ、今回ノ增稅ニ依リマシテ
平年度ニ於テ分類所得稅ノ增加四億二千四
百八十餘萬圓、綜合所得稅ノ增加一億六千
二十餘萬圓、所得稅合計五億八千五百十餘
萬圓、法人稅ノ增加一億四千三百餘萬圓、
臨時利得稅ノ增加二億四千九百三十餘萬
圓、特別法人稅ノ增加二百六十餘萬圓、相
續稅ノ增加二千四百九十餘萬圓、織物消費
稅ノ增加六千六百九十餘萬圓、物品稅ノ增加
千三十餘萬圓、電氣瓦斯稅ノ創設ニ因ル增
加千九百餘萬圓、廣告稅ノ創設ニ因ル增加
九百二十餘萬圓、馬券稅ノ創設ニ因ル增加
四千九十餘萬圓、印紙稅等印紙收入ノ增加

八百七十餘萬圓ト相成リマスルノデ、結局平年度約十一億五千五百萬圓、初年度タル昭和十七年度約九億七千三百萬圓ノ增收トナル見込デアリマス、此ノ昭和十七年度ノ增收額ハ臨時軍事費追加豫算ノ財源トシテ一般會計ヨリ特別會計ニ繰入レルコトト致シテ居ルノデアリマス、以上大體ノ御說明ヲ申上ゲテ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ賛成セラレムコトヲ希望致シマス

○委員長(伯爵樺山愛輔君) 大藏大臣ハ是カラ豫算會議ノ方ニ御用ガオアリダサウデスカラ、是カラ内務當局ニ分與稅法中ノ改正法案ニ付テ御說明ヲ願ヒタイト考ヘテ居ルノデアリマス

○政府委員(湯澤三千男君) 内務大臣出席出來マセヌノデ、私ヨリ御說明申上ゲルコトニ致シマス、本委員會ニ付託ト相成リマシタ地方分與稅法中改正法律案ニ付キマシテ其ノ概要ヲ御說明申上ゲマス、今回地方分與稅法ニ付キマシテ改正ヲ必要ト致シマスル理由ハ、國稅ノ增收等ニ伴ヒマシテ配付稅ノ割合ニ付テ當然改正ヲ要スルモノガアリマスルト共ニ、地方團體ヲシテ戰爭關係諸經費ノ處辨ニ支障ナカラシメムガ爲ニ、明年度配付稅ノ總額ヲ増額スルコトトナリマシタガ、配付稅分與ノ適正ヲ期スルニ於テキマシテ、其ノ分與方法中、緊急差措キ難キ數點ニ付キマシテ改正ヲ加ヘムトスルモノデアリマス、而シテ右改正ハ大體五項目ニ互ツテ居ルノデアリマス、其ノ第一點ハ、配付稅ノ基本國稅ノ增收等ニ伴フ配付稅割合ノ改正デアリマスガ、是ハ所得稅及法人稅ヨリスル割合改正ト、入場稅及遊興飲食稅ヨリスル割合改正トノ二ツデゴザイマス、先ヅ所得

稅及法人稅ヨリスル割合改正ハ今回ノ國稅ノ增收ニ伴ヒマシテ、配付稅ノ收入ニ變動ヲ來サシメナイコトヲ目標トシテノ改正デアリマス、即チ增收後ニ於テキマシテモ、增收前ノ所得稅額ト法人稅額ヨリスル配付稅三億五千九百餘萬圓ト、今回ノ增收案中ノ臨時利得稅及臨時租稅措置法中ノ改正ニ伴フ、地方稅ノ差引減收額一千餘萬圓ト、合算額三億六千九百餘萬圓ヲ配付稅所要額トシテ確保スル爲ニ、現行繰入割合ノ百分ノ十七・三ハ百分ノ十三・二ト改正セムトスルモノデアリマス、次ニ入場稅及遊興飲食稅ヨリ致シマスル配付稅ノ割合ハ、第七十七議會ニ於テ、右二稅ノ增收ニ伴フ一應ノ措置ト致シマシテ、機械的ニ割合ノ改正ヲ致シタノデアリマスガ、何分大幅ノ增收デモアリマスノデ、相當消費ノ減少ヲ來スモノトシテ、二稅ノ減少ヲ見込ムコトトナリマシタガ、之ニ伴ヒマシテ、配付稅額入額ニ減少ヲ來サザルキヨ措置スル必要ガアリマスノデ、先般改正致シマシタ割合百分ノ十五・一ハ再ビ改メマシテ、百分ノ十九・八四ニ引上ゲムトスルモノデゴザイマス、次ニ第二點ハ、配付稅ノ道府縣分ト市町村分ノ分與割合ノ改正デアリマスガ、昭和十六年度ノ道府縣、市町村ニ於ケル課稅ノ狀況等ニ徴シマスルト、尙市町村ノ方が概シテ高率ノ賦課ヲ爲スノ已ムヲ得ザル等、財政ガ相當窮屈ノヤウデアリマスノデ、此ノ際財源ノ一部ヲ市町村ニ移讓スルノ必要ヲ認メマシテ、道府縣百分ノ六十二ヲ六十トシ、市町村百分ノ三十八ヲ四十トシ、割合ニ於テ百分ノ二、配付稅額ニ於テ凡ソ一千萬圓ニ近イ程度ノモノヲ道府縣ヨリ市町村ニ移讓セムトスルモノデアリマス、次

ニ第三點ハ、道府縣ノ課稅力ノ算定ニ於テ控除スル災害土木費負債額ノ割合ノ改正デアリマス、現行規定ニ依リマス、道府縣ノ課稅力ハ、災害土木費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除シテ計算シ、負債ノ額ニ應ジテ配付稅ヲ多ク分與スルコトニナツテ居リマスガ、現行ノ程度デハ十分デナイヤウニ認メラレマスノデ、約倍額程度ノ七分ノ一ニ引上ゲヨウト存ズルノデアリマス、次ニ第四點ハ、分與額ノ經過的制限ノ程度ヲ緩和スル爲ノ改正デアリマス、現行法ニ依リマス、昭和十九年度迄ハ經過的制限トシテ、舊稅額ヲ一定ノ遞増率デ割増シタ額ヲ基準トシテ、此ノ額ニ比シテ改正稅制ニ依ル新稅額ト配付稅額トノ合算額ガ多クナル時ハ、一定ノ制限ヲ加ヘテ配付稅ヲ分與スルコトニナツテ居リマスガ、右一定ノ遞増率ヲ法律デ決メテアルコトハ實情ニ即セズ、且不當ナル結果ヲ生ジマスノデ、之ヲ實際ノ地方稅ノ増加趨勢等ヲ見究メマシテ、規定スルヲ適當ト認メラレマスノデ、此ノ遞増率ハ法律ニ規定セズ、命令ヲ以テ定ムルコトニ致シタイト存ズルノデアリマス、最後ノ第五點ハ、昭和十七年度配付稅分與額算定ノ一箇年延期デアリマス、昭和十七年度以降ノ配付稅ハ現行法ニ依リマス、其ノ前年度ニ於テ分與額ヲ算定ノ上通過スルコトニナツテ居リマスガ、明年度分ノ配付稅ヲ本年度中ニ算定スルコトト致シマス、未ダ改正稅制實施後ノ適正ナル稅ノ實績ガ現レテ居リマセヌ爲ニ、非常ニ無理ナ課稅力ニ依ッテ計算分與スルコトニナル虞ガアリマスノデ、分與ノ適正ヲ期スル爲ニ算定ノ一箇年延期シ、昭和十七年度ニ於テ正シイ課稅力等ヲ調査シテ分與額ヲ算定スルコトニ

致シタイト存ジマシテ、之ニ伴フ關係條文ノ改正ヲ行ハムトスルモノデゴザイマス、以上地方分與稅法中改正法律案ノ概略ニ付說明致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御賛成アラムコトヲ希望致シマス

○委員長(伯爵樺山愛輔君) 何カ本案ニ付テ資料ノ御要求ガアレバ、ドウカ御申出ヲ御願ヒシマス

○子爵大河内輝耕君 私人必要ニ應ジテ御願ヒシタイト思ヒマスガ、先ヅ御願ヒシタイノハ、大藏省ノ政府委員ハオイデニナリマスカ……直接稅ト間接稅ニ付テ、大體直接稅ガ總額デ幾ラニナリ、間接稅ガ總額デ幾ラニナルカ、此ノ增收案ニ付テ算定シタノト、現行法ニ依ッテ算定シタノト、兩方示シテ戴キタイ、サウシテハ地方稅ト國稅ト總括シテ御計算ヲ願ヒタイ、ソレカラ何時デモ宜シウゴザイマスガ、成ルベク早イ機會ニ、質問ヲ成ルタケニ重ニナルコトヲ避ケル爲ニ、衆議院デドンナ質問應答ガアツタカ、大體述ベテ戴キタイ、ソレダケ御願ヒシテ置キマス

○委員長(伯爵樺山愛輔君) 衆議院ニ於ケル質問應答ノ說明ニ付キマシテハ、大分廣汎ニ互ツテ居ルト云フ御話デアリマスカラ、明日此處デ御話ヲ願フコトニ致シタイト思ヒマス、別ニ御質問モオアリニナラナケレバ今日ハ此ノ程度デ止メテ置キマシテ、明朝十時カラ委員會ヲ開キタイト思ヒマス、是デ散會致シマス

午後三時二十分散會
出席者左ノ如シ
委員長 伯爵樺山 愛輔君
副委員長 男爵松岡 均平君

委員

公爵島津 忠重君

侯爵大隈 信常君

侯爵井上 三郎君

子爵青木 信光君

關屋貞三郎君

子爵野村 益三君

子爵大河内輝耕君

子爵西尾 忠方君

子爵綾小路 護君

平塚 廣義君

吉田 茂君

内田 重成君

男爵大森 佳一君

男爵中御門經民君

三浦 新七君

松村 義一君

堀 啓次郎君

野村 德七君

下出 民義君

中島德太郎君

上野喜左衛門君

男爵古市 六三君

大藏大臣 賀屋 興宣君

内務次官 湯澤三千男君

内務省地方局長 成田 一郎君

内務書記官 小林 千秋君

大藏次官 谷口 恒二君

大藏省主稅局長 松隈 秀雄君

大藏書記官 池田 勇人君

同 平田敬一郎君

國務大臣

政府委員

昭和十七年二月七日印刷

昭和十七年二月八日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局